第2学年 国語科の実践

1 単元名 読んで考えたことを 話そう「どうぶつ園のじゅうい」(全11時間 本時9時間目)

2 単元目標

- ◎文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想を持つことができる。
- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手立て…子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聴く・話すについての指導>

子どもたちの実態から、安心して発言できる・話し合いになるための土台として「聴く」ことに重点を置いて取り組んできた。「どんなふうに聞いてほしいか。」についてみんなで考え、「自分の方を向いてくれる」「静かに聞いてくれる」「聞く気持ちで」「最後まで」などの言葉が出てきて、基本的な事から確認していくことになった。そして、「今は誰が話す時なのか」という意識をもてるように繰り返し呼びかけてきた。

「聴く」ことを意識し始めたことで、「友だちの考えと同じ」「似てるけど少し違って。」「いや、そうじゃなくて。」などの発言も少しずつ出てきた。特に「でも、」や「えっ。」という声は発言にまでは表れてこないのが、注意して拾っていかねばならないと考えている。これらに加えて、友だちの意見を聞いて、よりよい考えだと思ったら自分の考えを変えていくのも大切なことだと伝えている。

「話す」については、まだ担任に向かって話してしまったり、伝えたいことがあるのに全員には届かない話し方だったり課題は多いが、「話す」際の基本的なことをみんなで確認したので、そこを意識していきたい。その中に「伝えたい気持ちで」「笑顔で」という言葉があるので、そのような状態に近づけるとよいと考えている。

<関わり合い・ひびき合いについて>

生活科の時間を中心に、「先生今日は何するの?」という声に対して、できる限り学習の初めは「今日は何するの?」「これからどうしたらいい?」という言葉かけるようにしてきた。すると、「野菜を植える!」「まだ、種とか届いてないじゃん。」「どうやって植えるかもわかんないし。」「じゃあ、何を植えるか決める。」というように子どもたちが自分たちで活動の土台を作れることが増えてきた。

そこでさらに、国語で異なる考えが出てきたときや算数で自分の解き方や答えに自信を持っているときなどでも、友だちの考えを受け入れようとする気持ちをもてるようになり、ひびき合いにつなげていきたいと考えた。

そのために自分たちで相談して決める経験を増やそうと、ある程度活動の見通しが持てた時点で「ここからは、先生がいなくてもみんなでできる?」という機会を持つようにした。音楽で一緒に演奏するグループを作って練習したり、国語でペアを作って練習して全体発表をしたり、生活科で1年生に教えてあげたい場所ごとにグループに分かれてセリフを考えたり。意見がぶつか

りながらも、なんとか自分たちで相談し合って乗り越える経験を重ねてきたことで、同じ目的を持っている活動に対しては関わりながらみんなの方向を決めていくことができはじめています。これらの小グループでの経験をクラス全体の問題に生かせるようにしていきたい。

4 単元と指導について

<単元について>

本単元は、説明的文章を読んで自分の考えをもち、交流する活動を行う。「たんぼぼのちえ」に続く説明文である。時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取り、自分の知識や生活経験と比べながら感想をまとめ、伝え合う能力を育てることをねらっている。

本教材「どうぶつ園のじゅうい」は、動物園の獣医の一日の仕事について日記のように書かれていて、一つの出来事が1ページ程度にまとめられているので、時間的順序や内容を捉えやすい。また、段落の冒頭に「朝」「見回りがおわるころ」など時間を表す言葉が示されているので、そこに着目して時間的順序と仕事内容、その仕事をするわけをおさえていく。

また、説明的な文章を読んで考えたことを発表する言語活動を設定している。読んで感じたこと、考えたことなどを自分の知識や経験と関係づけることで、考えが深まったり新たな気づきが生まれたりすることをねらっている。単元の終盤に向けて、子どもたちが獣医の一日の仕事を把握し、その大変さを感じ取ることができると考えられる。その上で、教科書から読み取ったことや自分の生き物に対する思いや関わった経験を合わせて考え、獣医に対する見方を深められるように扱っていきたいと考えている。

<指導について>

2年生の学習には、国語だけでなく音楽・道徳などにも様々な動物が登場する。そのため自然に動物に親しみを持つようになっていく。「どうぶつ園のじゅうい」では、リアルな動物に関わる話のため、子どもたちは興味を持ち、内容に引きつけられるものと思われ、動物たちに関わるのは、「かわいい。」「楽しい」だけではなく獣医や飼育員の大変さに気づくだろう。

獣医の大変さを確かめるために文章を追うことで時間的な経過・仕事の内容・何のために行うのかという理由・獣医の工夫などを整理することができる。しかし、子どもによっては全体の中から必要な一部分に焦点を当てて読み取ることが難しい子もいるので、段落ごとに区切って考えていく。また、ワークシートを使って同じパターンで考えられるようにしていく。この過程で獣医の仕事をより具体的に理解していけるだろう。

獣医の一日の仕事を把握した上で、改めて獣医の仕事について考えた時に、子どもたちは「やっぱり獣医さんは大変だ。」ということがわかるだろう。しかし、大変さの理由はそれぞれが微妙に異なるものと考えられる。そのずれを子どもたちに返すことによって、「**「じゅういさんの仕事はどんなところが大変なのだろう？」**」という**ことが問題**になってくる。初発の感想でも「大変そう。」という言葉が出てくるだろうが、漠然と「大変そう。」「忙しそう」だったものが、「こんなに仕事がある。」「動物に顔を覚えてもらうのも仕事なんだ。」「いろいろ工夫している。」「命に関わるから。」など、当初は出てこなかった理由や視点をもてるようにしたい。

本時では、**「文章の読み取りや自分の経験・思いをもとに考えた獣医の大変さを発表し合い、交流する姿」**をひびき合いの姿としたい。もしも「この日がたまたま大変だっただけ」など獣医の仕事の大変さに疑問を持つ子がいれば、全員で「毎日の仕事」と「この日だけの仕事」とを確認した上で、他の治療や仕事に関する資料や動画を見せて、毎日のように急な治療や仕事があるということがわかるようにする。

また、話し合いが本文の読み取りに偏ってしまうときには、自分が獣医だとしたらどこを大変だと思うかを想像させたり、大変だから獣医になりたくないという子が自分の気持ちを伝える場面を作ったりしたい。そして、こんなに大変なのにどうして獣医をしているのだろうという疑問につなげていきたい。

5. 単元構想 2年 国語 読んで考えたことを 話そう「どうぶつ園のじゅうい」 (全10時間)

単元・
目標

- ◎文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想を持つことができる。
- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿 (ブロッケーマ)

2年生の学習には、生き物がたくさん出てくるね。
・くまさん。
・こだぬきボン。・きれいな羽のくじゃく。
・りすとあひるとかめと…
・スイミー。・ふきのとうも生き物だ。
・じゃあ、たんぼのちえも。

「どうぶつ園のじゅうい」はどんなお話だろう ①②

題名から

- ・やったー。・動物のお話? ・もう知ってる。・動物園とかよく行くよ。

感想から

- ・説明文だ。・段落があるもん。
- ・獣医さんすごい。・動物が好きなんだと思う。・動物をいっぱい助けている。
- ・なんか大変そう。・忙しいよね。・そんなにたいへんかなあ。
- ・狼は頭がいいな。・動物のことを調べたい。
- ・でもどうぶつが助かってよかった。・私も獣医さんや飼育員になりたい。動物が好きだから。
- ・やだよ。大変だし、腫まれるかもしれないし。・毎日日記を書きなさいいけないし。
- ・動物は本当に顔を覚えるのかな。・どうしてペンギンはボールペンを食べたのだろう。

獣医と飼育員の違い、治療・歯茎などの言葉を確認しながら読む。

教材に興味を持ち、感想をもととして(注文体)

「じゅういさん」の一日の仕事をかくにんしよう? ③④⑤⑥⑦⑧

いつ	しごと	わけ
朝	どうぶつ園の中を見回る	病気になったときにすぐに気づくことができるため動物たちに顔を覚えてもらうため
見回りがおわるころ	いのしし おなかを機械を当てた ・えさを食べさせている間に	赤ちゃんがいるかどうかを調べるため
おひる前	にほんざる 薬を飲ませた ・えさの中に薬を混ぜた× ・粉にしてバナナにはさんだ× ・こなをはちみつに混ぜた○	けがを治すため 苦い味が嫌いだからなかなか飲まないから
おひるすぎ	ワラビー 歯茎の治療をした ・あばれるので、3人の飼育員におさえてもらう	歯茎にはい菌が入ってはれているから
夕方	ペンギン ボールペンを吐き出させた ・薬を飲ませて吐かせた	えさとまがえて飲み込んでしまったから命にかかわる ひど安心
1日のしごとのおわり	日記を書く	同じようなことがあったとき、よい治療ができるから
どうぶつ園を出る前	お風呂に入る 長い1日が終わる	人間の病気のもとになるものがついていいることがあるから

時間の順序を表す言葉を理解している(知・技)
何についてどのようなことがどんな順序で書かれているか理解し、表にまとめている(思・判・表)

獣医の仕事やそのわけを捉えている(思・判・表)

「じゅういさん」の一日の仕事はどうだったかな? 0.5

- ・やっぱり忙しくて大変だよ。・ずうっと働いている。・疲れそう。
- ・こわい。・動物のことが心配。・でもこの日がたまたま忙しかったんじゃない?
- ・楽しそう。・楽しくなさそう。
- ・なりたくない。・手伝いたい。・なりたくない。

上の表に戻り、毎日必ずする仕事とこの日だけの仕事を確認する。

この他にも獣医の仕事に関する資料・映像を用意して、常に突発的なことが起こるのがわかるようにする。

自分は「じゅういさん」になりたい?なりたくない?⑨(本時)

なりたくない	なりたくない
<ul style="list-style-type: none"> ・動物が好きだから。 ・大変そうだから。 ・かっこいい。 ・ペットを治してもらってうれしかったから。 ・動物を治してあげたい。 ・動物が元気になったらうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大変。・忙しい。・仕事がいっぱいある。 ・「ようやく長い1日が終わる」って書いてある。 ・動物は好きじゃない。 ・動物にかまれそうだから。 ・もし失敗したら動物が死んじゃうかもしれないし。 ・動物が死んじゃったらいやだから。

どう大変なの?

どうしてこんなに大変なのに動物園の獣医さんをしているのだろう?⑩(本時)

- ・動物が好きだから。・動物が助かったらよかったと思える。
- ・助けた自分もうれしい。・動物に「ありがとう」って言われる気持ち。
- ・動物に長生きしてほしいから。・命を守るため。
- ・動物が元気だと動物園に来た人が喜ぶから。それもうれしいかも。
- ・自分がいなかったら、病気の動物が死んじゃうかもしれないと思っ。

「自分もなりたくない」「自分はなりたくない」という友だちの思いも合わせて考えられるようにして、獣医さんの気持ちに近づけるようにする。

知識や体験と結びつけて考えをまとめ、書いている(思・判・表)

学習感想を書こう ⑩

- ・獣医さんがいてくれてよかった。・獣医さんの仕事は大変だけど、いやいと困る。・自分にはできないけどすごいと思う。
- ・動物が助かるとうれしんだと思う。・〇〇さんは、なりたいたと言っていてすごいと思った。
- ・自分も獣医さんや飼育員になりたいと思う。・大変な仕事だと思った。
- ・命を救えるからいい仕事だと思う。・やっぱり助けることができたならうれしいんだろうな。
- ・ペットとかも治してあげられたらいいな。・自分は動物が好きじゃないけど、好きだったらやりたいと思った。

説明的な文章の読解について、自分の知識や経験と文章の内容を結びつけて感想を持つ視点を習得している(思・判・表)

6. 本時について

本時目標 文章の内容と自分の経験や思いをもとにした話し合いを生かして、獣医さんの気持ちを想像することができる。

学習活動	主な支援・留意点
<div style="text-align: center;"> <p>じぶんはじゅういさんになりたい？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;">なりたい・手つだいいたい</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;">なりたくない</div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつがすき。 ・たのしそう。 ・大へんそうだから手つだいいたい。 ・どうぶつに元気になってほしい。 ・どうぶつをたすけたい。 ・いのちをまもりたい。 </div> <div style="margin-top: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・とても大へんだから。 ・いそがしいから。 ・どうぶつがすきじゃない。 ・かまれるかもしれない。 ・どうぶつがびょう気のもとをもっているかもしれない。 ・どうぶつがしんじゃったら、かなしい。 ・どうぶつがしんじゃったら、いやだ。こわい。 </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>じゅういさんの気もちは？</p> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「じゅうい」をしているじゅういさんの気もちは？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつがすき。 ・なおってくれるかな。 ・たすけられてうれしい。 ・どうぶつが「ありがとう」っていつてくれるかんじ。 ・じぶんがたすけなきゃ。 ・どうぶつえんのどうぶつがへらなくてよかった。 ・どうぶつがたすかってよかった。 ・どうぶつがしんじゃったらやだ。 ・長生きしていね。 ・しぬのは見たくない。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録を掲示し、獣医の一日の仕事を振り返ることができるようにする。 ・前時までで、獣医さんが大変だということとはわかった。「なりたい」「なりたくない」「楽しそう」「楽しくなさそう」と言う逆の意見が出てきて今日の話し合いになったことを振り返る。 ・意見だけでなく、理由を発表する。 ・それぞれの意見に質問や反対の意見などを出し合いながら発表する。 ・意見が出尽くしたら、同じ理由なのに逆の考えになっているところや、全く逆の考えの人に聞きたいことなどを聞いていく。 ・Yくんの「獣医さんはどうおもっているんだろう。」という言葉を取り上げ、大変なのにこの仕事をしている獣医の気持ちを想像するようにする。 ・獣医さんの気持ちを考えるときに、「なりたい」「なりたくない」で出てきた意見を生かせるようにする。 <p>◆自分の知識や経験と文章の内容を結びつけて考えを持つことができる。 【思考・判断・表現】</p>

7 実践を終えて

本単元は説明文なので、本校の研究が目指す「子どもが解決したい問題」をもったり「ひびき合い」を深めたりするには適さないかもしれない予想もある中、単元目標の「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想を持つことができる。」に焦点を当てることを目指して実践に挑戦した。<学習を進める中で>

子どもたちは初めて知る獣医の仕事に驚き、「獣医さんの仕事は大変だ。」「すごい。」という感想を持つ子が多い一方で、「獣医になりたい。」「いや、なりたくない。」という感想もあっても話題も上がった。獣医のどんなことが大変なのかを詳しく追う展開になったことで、その中で説明文の読み取りを進めることができた。

説明文の読み取りはワークシートを使って獣医の仕事を追っていったが、初めは「いつ」と「しごと」しか捉えられなかった。しかし、段落を進めるにしたがって、「これって仕事だけど、ちょっと違う。」「何でその仕事をするかだ！」「理由みたいな。」と話し合いの中から「しごと」と「わけ」を区別することができていった。

獣医の仕事を細かく読み取ったあとで、改めてどう思うか尋ねると、「やっぱり大変だ。」「仕事が多い。」「疲れそう。」「怖いこともある。」「でも楽しそう。」「動物を心配しているからできる。」など、より具体的な思いを持つことができていた。そして再び「自分も獣医になりたい。」「獣医にはなりたくない。」という話題が盛り上がり、本時の「自分は獣医さんになりたいか、なりたくないか」という問題につながっていった。

<成果と課題>

本時では自分が獣医になりたいか、なりたくないかの理由を発表する中から、獣医さんが「大変だからなりたい・手伝いたい」「大変だからなりたくない」という対立と、「命を守りたいからなりたい」「動物が死んじゃったら悲しいからなりたくない」という対立に子どもたちが「変だよ。」と気づき、そこに焦点を絞って話し合いが進んだ。

話し合いが白熱する中、ひとりの子がノートに書いていた「獣医さんはどう思っているんだろう？」という言葉を紹介すると、一気に話し合いが「獣医さんの気持ち」に移っていった。「動物を助けたいんだ。」「命を守りたい。」「大変だけど、すごい決心だ。」「死んじゃったら、悲しいけど、自分が病気だったら、そのままではいやだし。」…と、目指していた「子どもたちが自分の経験や思いをもとにして、獣医さんの気持ちを想像する」という「ひびき合いの姿」につながった。この話し合いは「獣医さんも動物が死んじゃったら、恐いのかな？」という新たな問題を生み、次の時間も白熱した話し合いは続いた。

今回の本時では、「獣医になりたいか、なりたくないか」という問題を話し合う中から、子どもの一言によって「獣医さんの気持ちを想像する」という話題に集約し、話し合いを深めることができた。この一單元だけで、子どもたちは話し合うことの楽しさを感じ、友だちの発言から話し合いを広げたり深めたりすることを学び、大きく成長した。

そのために有効だったのは、どの子どもの意見でもできるだけ肯定して、どこかで誰かの意見につなげてあげられないかと備えておいたり、最低限のルールだけは決めて、子どもたちだけで自由に話し合わせたりしてきたことだと感じた。やきもきすることも多く、教師としてはしんどい時間だったが、本時を迎えて「この子たち、すごいな。」と思えたのが最大の成果だった。

課題としては、学級として話し合いが上手くなったことで、話し合いが速いペースで進んでいくことが多くなった。すると、みんなの意見を理解しきれない子が話し合いについていけられない場面が出てくる。発言する子以上に聴いている子の様子や表情をよく見て、必要であれば教師が立ち止まらせ、わかりやすくもう一度発言させたり、ここまでの話し合いを整理したりすることが必要になると思う。その頃合いを見計らうのが難しいと感じている。